

「医学に挑む君達へ」

なぜカラスは黒いの？



カラスがなぜ黒いのか知っていますか？ と言っても、これからお話することは進化論の話ではなく神話の物語です。ギリシア神話に出てくるアスクレピオスの物語を聞いたことはありますか？

アスクレピオスはギリシア神話の医学の守護神で、太陽神アポロンと人間の娘コロニスの中に生まれます。アポロンは、一羽の白い羽をした人間の言葉を話すことのできるカラスを恋人のコロニスとの連絡係として役立てていました。しかし、それだけではなく、実は「白い」カラスは嫉妬深いところのあるアポロンに命じられて、監視役としてコロニスを見張ってもしました。

ある時、その白いカラスがアポロンにコロニスの浮気を告げました。怒ったアポロンはコロニスを矢で射殺します。しかし、この報告はカラスが道草を食っていた言い訳に付いた嘘だったようです。アポロンはカラスを罰して言葉を取り上げ、白かった羽を「真っ黒」に変えました。こうしてカラスは嘘をついた

ために黒い姿に変えられてしまったのです。そして、この事件から医学の祖アスクレピオスが生まれると神話では語られます。

コロニス死の直前に身ごもっていることを告げ、アポロンは今で言う帝王切開で胎児を救い出してケンタウロスの賢者ケイロンに養育を託しました。この胎児が後に医学の守護神となるアスクレピオスなのです。

ところで、世界各地の神話で蛇は「生と死の象徴」「永遠の生命力の象徴」などとして語られることをご存知でしょうか。蛇は長い間餌を食べなくても生きていける生命力、脱皮を繰り返し再生する姿からそのように語られてきたと言われていました。アスクレピオスも蛇の力を医術に活かすようになります。

賢者ケイロンのもとで育ったアスクレピオスは、医学に才能を示し、師のケイロンさえ凌ぐほどになりました。アスクレピオスの医術は、髪が蛇である怪物メドゥーサの血を使い、ついに死者まで生き返らせるまでの境地に達したのです。しかし、この事態を面白く思わない者がありました。冥界の王ハデスは自らの領域から死者が取り戻されていくのを“世界の秩序（生老病死）を乱すもの”と主神ゼウスに強く抗議しました。するとゼウスはこれを聞き入れ、雷霆をもってアスクレピオスを撃ち殺しました。このことに逆に気持ちが収まらなくなったのは子を殺されたアポロンでした。主神ゼウスに対して直接の非難ができなかったため、アポロンはゼウスの雷霆を作っていた巨人族で一つ目のキュクロプスたちを腹立ち紛れに皆殺しにしました。そのためアポロンはゼウスに罰せられ、羊飼いとして家畜の世話をさせられるようになったと語られます。

なぜ蛇が巻き付いた杖が医のシンボルなの？



World Health Organization

いずれもインターネットより

アスクレピオスの秘技である死者を蘇らせる技は、髪の毛が蛇であるメドゥーサの血を使います。古

代ギリシアでも、ほかの文化圏でも見られるように蛇は永遠の生命の象徴でした。つまり、アスクレピオスの使う蛇は医術の力の象徴であり、その医療行為自体が死に向かう状態を蘇らせる術でした。そういうわけで、蛇の力があってこそ医術の秘儀を行うことができるのですが、その蛇は自由勝手に動き回ってしまいます。そのため、蛇を使いこなすには、杖に巻き付けておかねばならなりません。この蛇を巻きつける杖は、まさに現代で言う医療倫理や治療ガイドライン的意味合いをもともものと考えられな
いでしょうか。素晴らしい力を秘めながらも時に手に負えなくなりかねない医術（蛇）を倫理（杖）でもって操るのが医療者（アスクレピオス）という訳です。

古代ギリシアにおいては、病院をアスクレピオスに因んで「アスクラピア」と呼びました。アスクレピオスの子どもたちはいずれも医術に関わっており、二人の息子はともに医学の知識に長けトロイア戦争で活躍し、娘には衛生を司り薬学のシンボルとされるヒュギエイアや治癒を司るパナケイアがいます。そして「医学の父」と呼ばれる古代ギリシアに実在した医師ヒポクラテスは彼の子孫であるとも語られます。そのアスクレピオスは死後天に上げられてへびつかい座となり、神の一員に加わったとされるのです。

患者さんや家族の希望をかなえるだけでいい？



インターネットより

医師は患者とその家族の願いをかなえるため最大限の努力をすることが大切です。しかし医学として編み出したその魔法のような診断法や治療法は常に社会と歩む必要があります。

上の写真を知っていますか？赤ちゃんを抱いている女性は、アニッサ・アヤラというヒスパニック系の米国人です。骨髄移植コーディネータとして活躍していました。次の様なことが実際に起こりました。

1988年春、アニッサが高校2年のとき白血病を発症する。親族に適合者なし。骨髄バンクに適合者

一人あるも提供を断られる。そこで、両親がある決心をした。それは、もう一人子供を作り、その子の骨髄を移植すること。そして、適合する 25%の可能性にかけた。父エイブ 45 歳、母メアリー42 歳の挑戦であったが妊娠に成功。妊娠 9 ヶ月で羊水検査を行い組織が適合していることが判明。家族は大喜びであった。1990 年 4 月 2 日無事出産。マリッサと命名。そして、マリッサ1 歳の時、マリッサからアニッサへの骨髄移植手術を施行し成功した。アニッサの白血病は完全治癒した。しかし、一方で強い批判を生んだ。「一人の子供を救うためにもう一人子供を作ることは正当化されるか？」(シカゴ・トリビューン)「スベアの臓器を得る目的で子供を作ることは正当化されるか？」(ロサンゼルス・タイムズ)などがあった。現在は、生殖補助医療がさらに進んでおり、望んだ型のドナーの兄弟が誕生しています。こうした子どもたちは「デザイナー・ベビー」と呼ばれています。また、兄弟姉妹を助けるために生殖補助医療で生まれる子どもたちのことは「救世主兄弟」と呼ばれています。

医学は愛だけでいいか？



(Wallraf-Richartz Museum, Cologne)

さて、またギリシア神話に話を戻しましょう。プロメテウスの物語はご存知でしょうか。プロメテウスは人間に火（科学技術）をもたらし、そのために全能神ゼウスに罰せられることになった男神です。

神話では、神々の間では未熟な存在である人類に「神の焰」を渡すことは禁忌となっていました。ある時、神の国からプロメテウスが人間界を見下ろしたところ、人間は無知と暗闇の中におり、自然界の猛威や寒さに怯えて暮らしていました。プロメテウスはそうした人類を哀れみ、火があれば暖をとることも料理も出来ると考え、主神ゼウスの所へ行き、人類に火を与えられないかと掛け合いました。しかし、ゼ

ウスは「無知というのは罪を知らないということだ。人間は、誰かが不幸だと思わせない限り、ずっと幸福なのだ。もし人間に火を持たせたら、人間は神同様、強力な存在となろうとし、オリュンポスを荒らしにやってくるだろう。」と言って取り合いませんでした。しかし、プロメテウスは、この言葉に納得せず、翌朝、日の出の火を少し盗んで人間に渡しました。そのため、プロメテウスはゼウスの怒りをかい、コーカサスの山の岩に鎖でつながれ、何千年にもおよんで、はげ鷹に腹を引き裂かれ、内臓をついばまれ続ける、という刑に処されたのです。

上の絵画は1640年ヨルダースが書いた絵画とされています。コーカサスの山にいるはげ鷹が日中次からつぎへとやってきてはプロメテウスの右わきの内臓を食べたとされています。この場所に、肝臓があることより、古くから肝臓は再生する臓器をだと知られていたのだとする説が生まれたとされています。

さて、このプロメテウスの大きな犠牲で火を手に入れた人間は幸福になったのでしょうか？たしかに、人間は洞窟から外に出て夜道を照らす松明を手に入れました。そして調理された食物を食べられるようになりました。しかし、一方でこの技術を、赤々と燃える鍛冶場にもちこみ、鋤、剣、槍を作り、兜をかぶり、戦争に出かける事態になったとされています。人類は火を使えるようになって以来、そこから生まれる文明や技術など多くの恩恵を受けるようになりました。一方で、ゼウスの予言通りその為に災厄も背負うようになったと古代ギリシア人はこの物語で語っているように思えます。「プロメテウスの炎」という言葉は、現代では原子力など人間の力では制御できないリスクを持った科学技術の暗喩として用いられます。

君らがヘラクレスだ！



ヘラクレスと二匹の蛇の像（カピトリノー美術館所蔵、ローマ）

さて、ギリシア神話では、勇敢な英雄ヘラクレスがプロメテウスの肝臓をついばみ続けるはげ鷹を殺し、プロメテウスを永遠の苦痛から解き放したとされています。

私が専門としてきた臓器移植治療はまさに、人間愛のプロメテウスです。しかし、現代のプロメテウスも悩み続けています。君らが医学の道を志したならば、医療と言う究極の人間愛を感じるでしょう。医師

は、困難な病気に患者とその家族とともに挑み、大きな喜び得ます。一方でヒトという生命を考えれば、神ですら成し遂げられなかったことに気付き、悩みを持つでしょう。だからこそ若い世代の君らが医の道を学ぶことを応援します。私は臓器移植治療のプロメテウスであるドナーを解放してあげるために、「移植可能な臓器を作り上げる」研究を成し遂げてみたいと思います。